

恵みの川 されど暴れ川

Our よしのがわ



Vol.43

～2021 盛夏号～

国土交通省 徳島河川国道事務所 発刊



交流体験inよしのがわ2019年の様子（汗見川）

■Vol.43コンテンツ

【連載】

- ・コウノトリ・ツルでつながる阿波の国
- ・吉野川歴史探訪 ※今月号はお休みします
- ・吉野川講座 Road to「よりよい吉野川づくり」
ステージ3：地域の自然・景観・社会環境に調和し 個性ある吉野川の創造-2

【事務所だより】

- ・大規模洪水に備え、演習を実施しました～令和3年度 堤防決壊を想定した緊急対策シミュレーション～
- ・流域治水協議会・大規模氾濫減災対策協議会を開催しました
- ・河川愛護月間ポスター

【現場だより】

- ・加茂第二箇所 堤防延伸中！【貞光出張所】（案内図①）
- ・重要水防箇所を市町と合同で巡視しました～出水に備え3市2町の首長と現地確認～

【特集】

- ・「川の時刻表」写真展

【寄稿】

- ・吉野川を釣る！

【ミニ情報発信室】

- ・吉野川流域の情報をコンパクトにまとめてお届けします

【Twitterだより】

- ・Twitter投稿よりピックアップしたとっておき情報をご紹介します

【イベント情報】

- ・吉野川流域のイベント情報

【案内図】







コウノトリ・ツルでつながる阿波の国

To the future with the stork and crane

ファッションと食、鳴門発2つの工房の物語



この特集では、コウノトリやツル類を軸にした吉野川流域における生態系ネットワーク※の形成について、また、その取り組みが周辺地域の活性化や魅力ある地域づくりにつながるようお伝えしていきます。



※生態系ネットワークとは・・・野生生物が生息・生育する様々な空間（森林・農地・川・都市内緑地・水辺等）が繋がる生態系のネットワークのこと。



今回は、国外や国内で様々な経験を積んだあと、故郷の鳴門に戻り、地域を盛り上げようとそれぞれ違うジャンルで活動されている方々を紹介します。

鳴門市出身の根本ちとせさんは、大手アパレルメーカーに就職し、ご主人の弘之さんとイタリアに渡り、約13年間ファッション業界の仕事を担当しました。その後、美馬地域おこし協力隊として、藍の普及に関わりました。今までの経験を活かし、伝統的な藍染めの技術とファッションを繋がりたいと2019年に『正藍染工房 STUDIO N2』をオープン。今年の4月からは、鳴門市大麻町で藍の栽培も始めました。畑で作業をしていると何度もコウノトリに遭遇したことがあるそうです。

清水亜希子さんは、幼い頃からの「チーズ

職人になりたい」という夢を叶えようと、北海道で4年間、チーズとミルクの修行をしました。そして、2018年5月から徳島県初のナチュラルチーズ工房『チーズの灯^{あかり}』をオープンさせました。清水さんは、鳴門市の『小さな地域商社スイミー』のメンバーで、マルシェ等のイベントにも参加しています。スイミー代表の河田奈弓さんと「実現させたいね」と話していることがあります。それは『NPO法人とくしまコウノトリ基金』が運営している『コウノトリビオトープ』で水牛を飼うことです。「水牛にビオトープの草を食べさせて搾乳をして、チーズの原料になるおいしいミルクができれば」と夢を話してくれました。

鳴門で紡がれる、素敵な2つの工房の物語の始まりです。

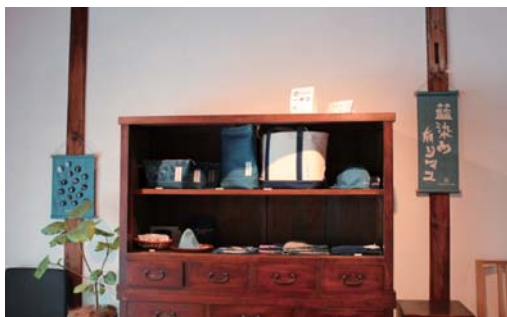
藍と向き合い、ファッションとしての可能性を追求●●●



お二人とも、長くアパレル業界に身を置く服作りの専門家。N2の名前は鳴門のNと根本のNから。



高い天井には太い梁。白壁と商品の藍色、中央に見える大谷焼の藍瓶。商品ディスプレイに使われている骨董家具などが落ち着いた空間を作り出している。



骨董家具にディスプレイされた商品。トートバックやポーチ、帽子やマスクまで手に取ってみたい商品が並び。

「藍染めの洋服というと、まだまだ敷居が高く、年配の方が着るものというイメージがありますが、私たちが提案するのは、普段の暮らしに適したウェア。暮らしに藍染めを取り入れることで、多くの方が藍染めの価値を見出し、身近な存在になればと思っています」と、根本ちとせさん。ご主人の弘之さんとともに、ご実家を改装した工房で、吉野川沿岸の肥沃な土地で育った阿波藍で作った染料のすくもを使い、藍建てから藍染めを行い、藍染めのアンダーウェアや雑貨の製造販売を主に、週末には藍染め体験も行っています。

鳴門市出身のちとせさんは、服飾の専門学校を卒業後、大手アパレル会社に入社し、ご主人とともにファッションの本場イタリアに渡ります。約13年間、別々の会社で働きながら、そこで見たものは、大量生産、大量消費ではなく、本当に美しいものを大切に、コツコツと丁寧にものづくりをする職人の姿でした。

「イタリアでは、それぞれのメゾン(会社)がゼロからしっかりとものづくりをする、そんなシステムが整っているんです」と弘之さんは話してくれました。

転機は、2017年。ちとせさんが帰国して、働いていたアパレル会社の本社が福山市から東京への移転が決まったことでした。仕事は充実していたものの、「イタリアで見たようなゼロから作り上げるものづくり。細かいところまで自分の目が届く、それをやるのは今しかない」そう決意し、会社を退職。アパレル業界で働いていたお二人にとって、生地を染めるということは日常的で、藍染めは、そう縁遠いものではありませんでした。

まず、ちとせさんが美馬市地域おこし協力隊に応募。脇町うだつの町並みにある工房で、観光客への藍染め体験指導に関わりながら、その基本を学びました。徳島県外で働いていた弘之さんも、「藍の力は洋服にも活かせるはず、もっと掘り下げてみよう」と、藍建ての方法や染色技法、藍染めの効能などを徳島県内や栃木県などに出かけて学び、起業準備を重ねてきました。

こうして、2019年に工房がオープン。現在は、弘之さんが藍の抗菌、消臭に着目し、身体に優しい天然素材ファインメリノウールを使ったアンダーウェアを中心に、ちとせさ

んは、レディース向けの商品をそれぞれ展開しています。

染液を作り、染色と水洗いを何度も繰り返し、生地を染め上げ、型紙を起こして、長い時間をかけて作り上げていく商品。決して大量生産はできません。「本当にいいものを作りたいですね」と弘之さん。これからも変わらず、コツコツと藍に向かいあう日々が続いていきます。

商品作りとともに、力を入れているのが藍染め体験。「もう少し体験のコンテンツを分かりやすく、ウェブページで紹介したいですね。観光でいらした方に徳島の藍の歴史や藍染めについて、丁寧にお伝えしていくことも私の役割だと思っています」とちとせさん。

オープン以来、休みなく走り続けているお二人。いろいろな藍色にあふれる工房。商品に囲まれながら、お二人と話していると、鳴門の青い海をゆったりと眺めているような気分になります。藍の歴史を知り、暮らしに寄り添った藍染めファッションに出会える『STUDIO N2』へあなたも出かけてみませんか。



Tシャツやワンピースなどのウェアが並び。

正藍染工房 STUDIO N2
TEL 090-7787-7610
鳴門市撫養町小桑島日向谷80



ブランド名が染め抜かれたのれん。上が、ちとせさんのブランドsoumei(そうめい)。漢字では、蒼鳴と書く。下が弘之さんのNARUTO AZZURRO(ナルトアズーロ)。アズーロはイタリア語で青。どちらも鳴門の海の色を表したものだ。

藍染体験は、2名から6名まで。金、土、日曜に開催。予約が必要となります。詳しくはウェブページをご覧ください→



徳島で唯一のナチュラルチーズ工房 『チーズの灯』

鳴門市撫養町木津に、毎週土曜日だけオープンするチーズ工房があります。口コミで来るお客さんや常連さんが次々と購入し、お昼すぎには、早々と売り切れになることが多いチーズ工房、それが『チーズの灯』です。ミルク選びから、チーズ作り、販売のすべてをチーズ職人の清水亜希子さんが一人で手がけています。原料となるミルクは、徳島県内の自給飼料にこだわった酪農家さんから購入し、丁寧にチーズを造っています。

鳴門市出身の清水さん。商品の名前は徳島愛にあふれています。現在販売されているチーズは6種類ですが、この中で『しらさぎ』、『よしの』という吉野川に架かる橋の名前がつけられている商品があります。ヨーロッパでは、チーズの名前に地名をつけることが多いことをヒントに、地名と同様に親しまれている吉野川に架かる橋の名前を順番に商品名にしようと考えました。「しらさぎ大橋からは、海も吉野川も見えて雄大な景色が広がっています。通るたびに、こんなにきれいなところがあるんだなと思っています」と話してくれました。今後、新しい熟成庫を購入し、チーズの種類も増えたら、次のチーズの名前は『四国三郎』にしたいと考えています。「名田橋から『なだ』もできますし、吉野川の橋の名前なら、商品もまだまだできますね」と、笑顔で話してくれました。

また、『むや』は「日本人が親しんできたお酒を使って味わいをだせたら」と、地元の『本家松浦酒造場』さんの協力で完成した、お酒の酵母を使って乳酸菌と共に発酵させたチーズです。名前は工房のある地名と町内には撫養橋もあることから、『むや』にしました。日本酒の酵母を使うことで味がマイルドになり、お子さんでも食べやすいチーズです。

チーズ作りに興味を持ったきっかけは、中学生の時にチーズ職人のドキュメンタリー番組をTVで見たことでした。この時から「チーズ職人になりたい」



清水亜希子さん。工房の名前は、今までチーズ作りに携わる人たちから受け取った思い（灯）を大切にしたいと名付けました。



商品の名前にもなった『阿波しらさぎ大橋』みんなに親しまれるチーズをとの想いが込められています。



『しらさぎ』は10日間の熟成で完成します。クリーミーな味わいが特徴です。『よしの』は、ふわふわ食感が甘みと酸味が調和したデザートチーズです。



そのままでも、熱で溶かしても美味しい『むや』。

という思いはありましたが、動物も好きで、大学は畜産学科に進学しました。卒業後は、動物病院で仕事をしていました。この頃、ふと訪れた図書館で出会った一冊の本が、TVで見た憧れのチーズ職人吉田全作さんが書いた本だったのです。本を読み「やっぱり、徳島にない初のチーズ工房を地元鳴門で出店したい。国内でチーズについて学ぶなら、北海道に行くしかない」と決断しました。北海道の『共働学舎新得農場』で、4年間住み込みで修行をしました。チーズ造りについて3年間、4年目は、チーズの原料となるミルクについて学びました。搾乳から始まり、乳牛についてのすべてを知ることができました。技術的な事だけでなく、北海道の大自然の中で、生活の仕方や生活を楽しむ事を知り、自然とともに生かされていることを実感できたことも大きな収穫でした。

「チーズ造りは『牛が草を食む』ことから始まります」と話す清水さん。鳴門に帰ってきて、最初に始めたのは、新鮮なミルクの生産者を探すことでした。酪農家の知り合いもいなかったことから、徳島の酪農事情を知りたいと、牛たちのお世話をする酪農ヘルパーをしながらミルクも分けてもらい、チーズの試作を重ねました。2年ほど探し続け、やっと青草を餌として与えている酪農家を見つけることができました。青草は、酵素や微生物を多く含んでいるため、ミルクの味も良くなります。餌が青草か干し草かによって、ミルクの性質や味わいも変わります。この農場では、冬場には自給した青草を餌として与えるため、冬場に造るチーズは濃厚な味になります。干し草を餌にしている夏場のミルクは、さっぱりとしているため、チーズの味もすっきりとしたものになります。手造りならではの四季折々の風味のチーズが味わえます。

「徳島のミルクを使った美味しいチーズを造り続けることが、酪農の応援にもなります。徳島ではなかなかない、熟成させないフレッシュチーズも充実しています」と清水さん。マルシェなどのイベント参加も積極的になりたいと考えています。チーズ造りを通じて地域の振興にも寄与する活動が楽しみです。



新鮮で弾力があるモッツァレラ。熱を加えると溶けるのでピザやグラタンにもぴったり。



熟成庫でじっくりとチーズが造られていきます。



新鮮な青草を美味しそうに食べています。

チーズの灯

住所：鳴門市撫養町 木津
623-5

電話：080-4039-6723

営業日：毎週土曜日

営業時間：

10:00～19:00

(売り切れ次第終了)



インターネット注文は『小さな地域
商社スイミー』で受け付けています。
スイミーのウェブサイト



写真提供：チーズの灯

吉野川講座

Road to 「よいよい吉野川づくり」

いよいよ夏本番！1年の中で一番水辺に行く機会が増える季節になりました。水辺に行く時は、安全対策もしっかりしてくださいね！

さて、前回（Vol.42）は、河川景観や河川空間の利用について紹介しましたが、実は近年、河川空間の利用を通じて地域や観光を盛り上げようとする動きがどんどん活発になっています。今回は、河川管理者、地域住民、民間業者などが一体となり、河川を中心とした地域活性のために行っている取組について学んでいくことにしましょう。



「よいよい吉野川づくり」への道のり

▶ステージ2
安全で安心できる
吉野川の実現

済 Vol.38~41

▶ステージ1 済 Vol.37
河川法改正と
吉野川水系河川整備計画

熱中症に気を付けて、
ステージ3の旅を続け
よう！

▶ステージ4
河川本来の自然環境を
有する吉野川の再生

▶ステージ3
地域の自然・景観・社会環境に
調和し個性ある吉野川の創造
Vol.42~

▶ステージ5
「よいよい吉野川づくり」に向けて

「地域の自然・景観・社会環境に調和し個性ある吉野川の創造」の理念

地域の自然や景観、社会環境に調和した河川空間を創出し、流域住民の積極的な自然活動や環境学習等の利用を促進するための施策を展開する。

（吉野川水系河川整備計画【変更】P97 抜粋）

▶ステージ3：地域の自然・景観・社会環境に調和し 個性ある吉野川の創造

1. 水に親しみやすくするための空間づくり

たくさんの人の憩いの場という、公園を思い浮かべると思います。まずは、公園の整備により水に親しみやすくした取組について学びましょう。

下の写真は、徳島にある公園ですが、みんなはこのような場所に行ったことがあるかな？また、身近にこのような公園はあるかな？



▲新町川・阿波製紙水際公園（新町川水際公園）
（徳島市）



▲桜づつみ公園（藍住町）

ここはお母さんと出かけた時に
通ったことがあります。

道のすぐ近くに川が流れていて、
歩くのが楽しかったです。



川沿いに桜並木があって、
ステキな場所ですね。

家の近くにあったら毎日散
歩に行きたいです。



上の写真の公園は、どちらも治水機能を持たせつつ、水辺に親しめるような
工夫や景観づくりにも配慮して整備されています。

まずは、このような公園の特徴について紹介しましょう。

親水性に配慮した公園

水に親しみやすくすることを「親水性
（しんすいせい）」といいます。

親水性に配慮した公園とは、河川や湖沼、
海浜などの水辺において、護岸の勾配を緩くする、階段を設置する等の整備により、
利用者が安心して水と親しむことができる公園です。



▲今切川水辺プラザ（北島町）



▲江川・鴨島公園（吉野川市）

水際は緩やかな勾配になっているのが親水性に配慮した水辺の特徴なのですね。これ
ならたくさんの人が水辺をより身近に感じることができますね。



桜つつみ公園

桜つつみ公園は、地域を水害から守るための堤防の強化を図りつつ、桜などを植樹して、積極的に良好な水辺空間の形成を図ることを目的として昭和63年より実施している「桜つつみモデル事業」により整備された水辺です。

水辺にキレイな景色や安心して過ごせる場所があるのは嬉しいですね。



環境への関心の高まりを背景に、水辺空間の利用に関しても様々な取組が行われていて、親水性に配慮した公園や、桜つつみ公園もその一つです。

次は、さらに大きな取組として、地域住民や関係機関と連携し、行っている水辺の整備とまちづくりについて学んでいきましょう！



▲貞光桜つつみ公園（つるぎ町）



▲第十桜つつみ公園（石井町）

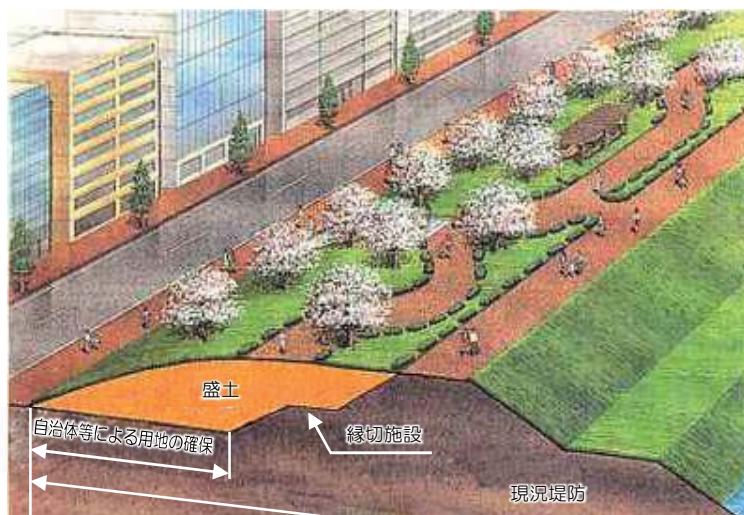


図 1.桜つつみモデル事業イメージ

2. 没個性的な河川整備からの脱却

国土交通省が平成18年10月に公開した、河川景観ガイドライン「河川景観の形成と保全の考え方」の中では、まちづくりと一体となった取組の必要性を以下のように記載しています。（「河川景観の形成と保全の考え方」より一部抜粋）

従来、河川の整備とまちづくりの事業は別々の体系で進められ、もともとその河川が備えている空間構造に応じた河川の利用や景観のあるべき姿と、地域における河川の位置づけや河川への要請とは必ずしも整合・調和せず、結果として良好な河川景観が失われがちであった。

河川の景観は、流域の土地利用のあり方や、河川周辺のまちづくり、人々による河川空間の利用等、流域や地域のあり方に大きな影響を受けている。とりわけ、市街地を流れる中小河川においては、河川景観の中に占める建物や構造物等の割合が高く、河川背後のまちづくりのあり方が、河川景観に与える影響は極めて大きい。

したがって、河川を軸とした良好な景観を形成するためには、河川管理者、地方公共団体、市民、企業等が連携した取り組みを行うことが望ましい。

河川整備 ≠ まちづくり

地域における河川の
役割・景観の不調和

治水、利水等の観点からは、安全で安心できる国民生活の実現に欠かせないものだが、環境に配慮せず、没個性的な川づくりが求められる時代ではない。



川づくりとまちづくりは、みんなで協力しないと
いけないね！

3. 河川空間の整備と適正な利用～かわまちづくり～

「かわまちづくり」とは

市町村や民間事業者、地域住民等と河川管理者が各々の取組を連携することにより「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間を形成し、河川空間を活かして地域の賑わいを創出することを目標として、国土交通省では、水辺を活かして地域の賑わい創出を目指す取組「かわまちづくり」を推進するため、平成21年度に「かわまちづくり」支援制度を創出し、市町村等からの申請に基づき計画の登録を行い、ハード・ソフト両面から支援を行っています。



＜ソフト対策＞

優良事例等に関する情報提供のほか、河川敷のイベント施設やオープンカフェの設置等、地域のニーズに対応した河川敷地の多様な利用を可能とする「都市・地域再生等利用区域」の指定等を支援

＜ハード対策＞

治水上及び河川利用上の安全・安心に係る河川管理施設の整備を通じ、まちづくりと一体となった水辺整備を支援

＜手続きフロー＞※民間事業者が計画の主体となった場合の流れ



「かわまちづくり」は河川に係わる様々な人の協力なくしては実行できない取組ですね。

たくさんの人の思いがひとつになってできた河川空間は、地域の人たちにとっても、観光に来る人たちにとっても魅力的な場所になりそうですね。

民間活力を活かした「かわまちづくり」により地域が活性化



吉野川水系河川整備計画【変更】の中には、「かわまちづくり」によって、子どもたちの河川を利用した環境学習や自然体験学習をサポートする場、各種スポーツやイベントを通じた交流の場など、吉野川の雄大な自然の中で遊び、学び、楽しむことができるような水辺整備を積極的に推進する、と記載しています。実際にどのような整備が進められているのかを見ていきましょう。

4. 吉野川水系における「かわまちづくり」の取組事例

事例 1 内町・新町地区かわまちづくり（新町川～助任川 L＝約 6km）

<事業概要>

内町・新町地区かわまちづくりは、護岸修景・遊歩道や、新たな船着場「川の駅」の整備を一体的に実施するとともに、地域資源であるLEDを活用した景観整備により、これまで整備してきた水の魅力に「光」の要素を新たに加えることで、他の都市にはない魅力をもった「水都・とくしま」を創造し、全国に発信するものです。

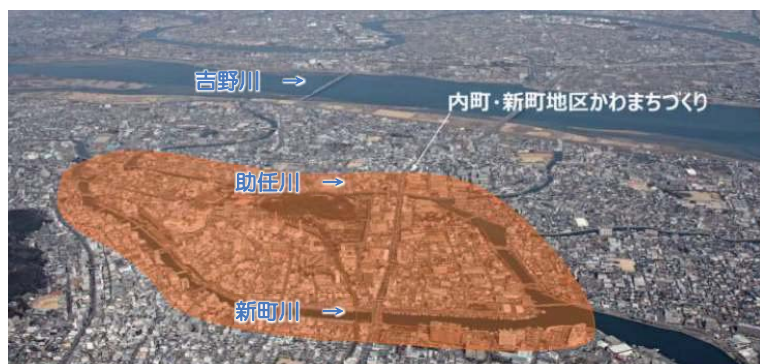
親水公園、ボードウォークが整備された水辺では、マルシェをはじめとした様々なイベントの開催により、多くの県民が集う憩いの場となっています。

<主な整備の内容>

徳島県：河川管理施設整備

徳島市：川の駅（船着き場）、LED景観整備 等

<位置図>



▲ひょうたん島クルーズ発着場



▲LEDを活用した景観整備



「内町・新町地区かわまちづくり」活動の主体である NPO 法人新町川を守る会は、1990 年 3 月に発足して以来、川の清掃活動、花植え、水辺のイベント開催等を積極的に行っています。市民の強い思いと行動力が川を大きく変えた事例として広く注目されています。



「内町・新町地区かわまちづくり」が「審査員特別賞2019」を受賞！

地域を流れる川を活かして、賑わいを創出し、他の模範となる先進的な取組を讃えることを目的として、平成30年に創設された国土交通省の「かわまち大賞」において、「内町・新町地区かわまちづくり」は、令和元年12月、審査員特別賞を受賞しました。（Our よしのがわ Vol.34 関連記事）



事例 2 ^{しほう} 芝生地区かわまちづくり（三好市／吉野川左岸 60k 付近）

<事業の概要>

徳島県西部最大の高水敷である立地を最大限に活かし、人々が川に親しみ、川の自然や文化を学ぶ多様な交流拠点とすることを目的とした「かわまちづくり」として 2010 年度の対象事業に登録されました。

隣接する美馬市の水辺の楽校、四国三郎の郷と一体となったオープンスペースを活かし、多目的広場、遊歩道、駐車場、トイレ施設等の整備を行い、多くの利用者でにぎわっています。

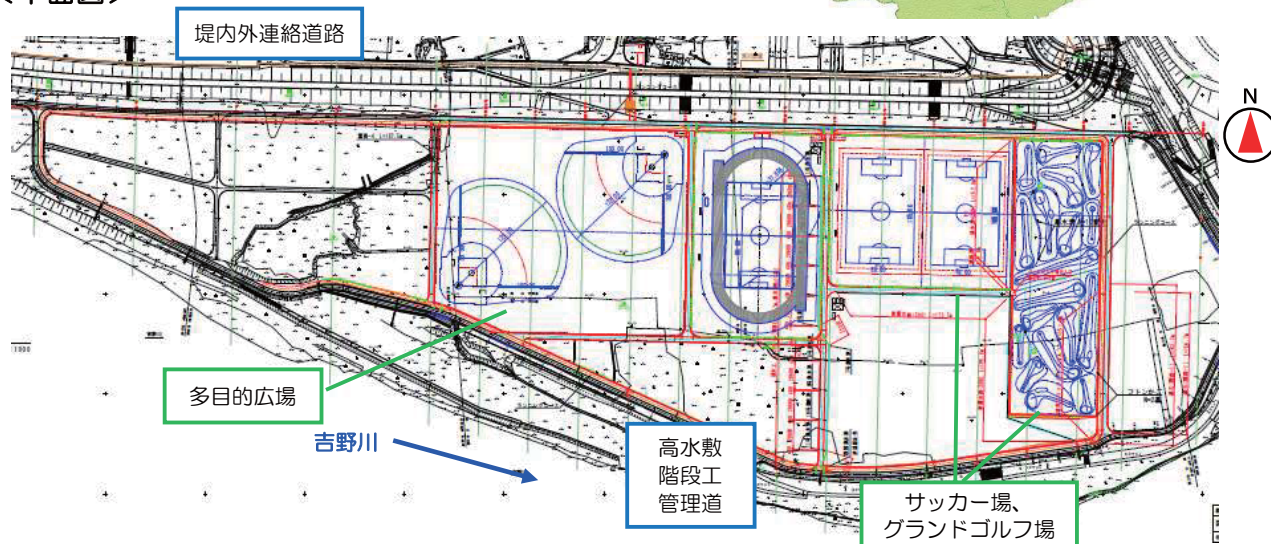
<主な整備の内容>

国土交通省：高水敷整正、階段、管理道 等
三好市：多目的広場、サッカー場 等

<位置図>



<平面図>



▲グランドゴルフ場



▲サッカー場



▲四国三郎の郷



小学生を対象に、川で安全に楽しく遊んでもらうため毎年行っているイベント「交流体験 in よしのがわ」（主催：吉野川交流推進会議）の中流編はこの周辺で実施しています。

また、隣接する「水辺の楽校」は、子どもたちの体験活動の場が拡大し、「川に学ぶ」体験を推奨する観点から、国土交通省が平成8年度より推進している「水辺の楽校プロジェクト」として整備を行いました。



▲交流体験 in よしのがわ（中流編）
令和 2 年実施の様子

事例 3 今切川水辺整備（百石須地区）かわまちづくり（北島町／今切川左岸 11k 付近）

<事業の概要>

水上スポーツを楽しむやすい環境とするために、ボート用のスロープや階段護岸を整備し、水辺交流プラザのトイレは更衣室としても利用可能なように設計しています。

また、水辺交流プラザ敷地内にある休憩施設、アクアプラザには農産物の直売所も併設され、年間 1 万人を超える利用客で賑わいをみせています。

<主な整備の内容>

国土交通省：階段護岸、坂路、親水護岸 等
北島町：水辺交流プラザ、多目的広場

<位置図>

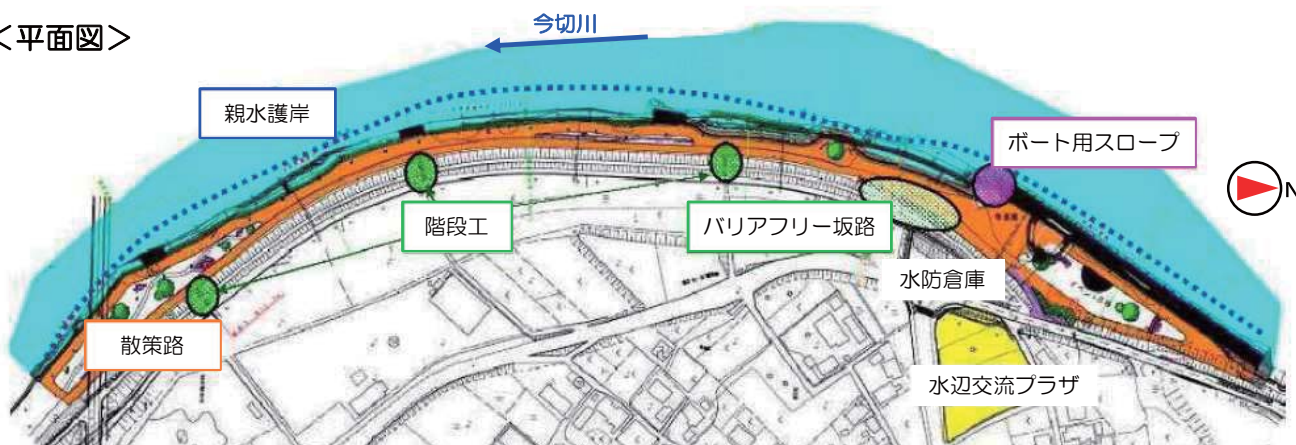


▲親水護岸



▲ボート用スロープ

<平面図>



市街地からもアクセスしやすい場所にあり、ボート用スロープや親水護岸が広く整備されているので、気軽に水上スポーツを楽しむことができる絶好の場所です！

今切川・旧吉野川は釣りの大会が行われることもあり、たくさんの釣り人が全国から訪れています。



▲アクアプラザ

事例4 ダム貯水池周辺整備の促進「早明浦ダム周辺地区かわまちづくり」



ダム貯水池周辺は、森と湖に囲まれた貴重な水辺空間であるとともに、地域コミュニティの場としても非常に重要です。吉野川上流に位置する早明浦ダムにおいても「早明浦ダム周辺地区かわまちづくり」計画が令和3年3月に登録されました。これから始まるかわまちづくりにもぜひ注目してください！

<事業の概要>

早明浦ダム周辺地域に位置する本山町、土佐町、大川村における振興計画では、さめうら湖や吉野川等の水辺を活用、拠点化することによる観光振興、地域間交流、地域活性化等を重要な施策として位置づけ、様々な取組が行われています。

この取組を充実させるため、本計画では、湖、川、村、森、道の5つの駅を拠点とした早明浦ダム周辺地域をつなぐかわまちづくりをコンセプトに、ダム周辺の豊かな自然資源を有効活用し、水源地域と受益地域の交流促進に資する水辺整備を2町1村と連携して実施し、地域全体の活性化に取り組んでいきます。

<位置図>



▲早明浦ダム



<整備イメージ>



全国の「かわまちづくり」を見てみよう！

国土交通省が発信している、かわまちづくりの Web ページでは、全国 229 カ所で行われているかわまちづくりの取組内容や、『かわまち大賞』を受賞した取組の紹介等、かわまちづくりに関する様々な情報をご覧ください。



全国各地のかわまちづくりの取組を見ているだけでも、ちょっとした旅行気分を味わうことができますよ。

また、川をはじめとした水辺が人々の心を癒し、子どもたちの学びの場として大切な存在であることを実感できます。

みなさんの身近にある川や子どもの頃過ごした思い出の川も、ひょっとするとかわまちづくりに関わっているかもしれません。よかったらご覧ください。



国土交通省 かわまちづくり Web ページ

<https://www.mlit.go.jp/river/kankyo/main/kankyou/machizukuri/index.html>

審査員特別賞 2019 KAWAMACHI-AWARD

笑顔みちる「ひょうたん島」
内町・新町地区かわまちづくり(徳島県徳島市、吉野川水系新町川・助任川)

評価ポイント

- ★ 大堰や橋梁より前に歩道を開設し緑地として遊憩を実施してきた実績、船等も企業から寄付してもらうなどの連携、これまでの水辺の活動をリードしてきた実績があり、次世代への継承も期待できる。
- ★ NPO法人が舟運を守り続け、民間が運営してきた歴史ある取組と見える。舟運等の河川を利用した活動が地域活性化につながる事例として、他の地区の参考となる。

取組内容

- ✓ 水辺の取組が「知」を継承するエリア内にも大きく期待
- ✓ 地域資源を活用した新たな取組

かつては生活排水で汚れた川を、国・県・市はもとより民間も一体となったボランティア清掃、水質浄化、庭園整備、舟運などの様々な取組の結果、人々が集う「島」を創出する取り組みとして発表。

LEDを活用した景観照明や「ふるさと納税型クラウドファンディング」を利用した寄付による修繕費の確保、「川川」のオープン化の利便性を利用した水辺を舞台とした様々なイベント開催など、市民連携による地域資源を活用した新たな取組を実施。

主催：内町・新町地区かわまちづくり
協賛：徳島市、徳島県、吉野川水系新町川・助任川
協賛：徳島市企業政策局企画政策課

国土交通省 かわまちづくり

▲審査員特別賞 2019

「内町・新町川地区かわまちづくり」記事



「かわまちづくり」は、それぞれの川の特性をうまく活用しながら、たくさんの方が川に親しめるようにするための取組なのですね。「かわまちづくり」によって、川で過ごす時間がこれまで以上に楽しくなりそうですね。

今回の旅はどうだった？「かわまちづくり」によって、水辺を中心に地域を活性化しようとする取組の様子がわかったかな？これからは魅力的な水辺が増えていくと嬉しいですね。

さて、次回 (Vol.44) はステージ 4 を旅して、河川環境の整備と保全について学んでいきます。治水・利水・景観づくりのための河川整備を進めろうえで重要な周辺の河川環境との調和や、吉野川本来の自然環境を守る、もしくは取り戻すための取組について学んでいきましょう。

まだまだ暑い季節が続くので、熱中症と水難事故には十分注意して、楽しく過ごしてくださいね！



大規模洪水に備え、**演習**を実施しました！

～令和3年度 堤防決壊を想定した緊急対策シミュレーション～

徳島河川国道事務所では、令和3年6月24日（木）に「堤防決壊を想定した緊急対策シミュレーション」を実施しました。

「堤防決壊」については、発生頻度が非常に少ないものの、令和元年東日本台風（台風19号）、令和2年7月豪雨等において複数個所で堤防決壊が生じており、このような近年の降雨状況を踏まえると、吉野川でもいつ発生するかわからない状況にあると言えます。

「堤防決壊」という最悪な事態に備えるためには、日ごろから問題意識を持つとともに、万全の準備を図ることが重要であり、取組として平成19年度より実施しています。

シミュレーションの概要

想定 大規模な洪水が発生したことにより、吉野川左岸 23k200 付近が決壊



堤防決壊による最大浸水エリア（計画規模）（46 時間後）
出典：「地点別浸水シミュレーション検索システム」（浸水ナビ）

「浸水ナビ」とは、浸水想定区域図を電子上に表示するシステムです。

自宅や職場などが浸水する恐れがあるのか等、あらかじめ調べておいて、水害への事前の備えや安全確保の行動につなげましょう。



浸水ナビ

対応

吉野川の水位や決壊により浸水したエリアの排水作業の状況等も確認しながら、若手職員も参加し以下の項目を検討しました。

- ①緊急復旧
- ②応急復旧堤防築造の工法
- ③復旧に必要な資機材や運搬路の確保 等



堤防復旧工法検討の様子

演習後の意見交換では、参加者から様々な課題や気づきが上がりました。これらの意見を踏まえ、今後、より適切な対応ができるよう改善に取り組んで行きたいと思えます。



流域治水協議会・大規模氾濫減災対策協議会を開催しました

令和3年5月26日（水）、第4回吉野川流域治水協議会及び第8回吉野川上流・下流大規模氾濫に関する減災対策協議会を（同日）オンラインで開催しました。

＜議事内容＞

- 「流域治水プロジェクト」及び「地域の取組方針」の今後の進め方
- 流域市町における取組状況
- リスクマップの公表と今後の予定 など



※協議会資料は徳島河川国道事務所
Web ページに掲載しています。
http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/yoshinoriver/ryuiki_pro/ryuiki_pro.htm



水害による「逃げ遅れゼロ」、「社会経済被害の最小化」を実現するため、また、令和3年3月に公表した「吉野川流域治水プロジェクト」の実行性を高めていくため、引き続き、徳島県や流域内各市町村等と連携・協働しながら取組を推進していきます。

流域治水

集水域、河川区域、氾濫域を一つの流域として捉え、地域の特性に応じ、あらゆる関係者が協働しながらハード、ソフト対策を一体で多層的に進める（下図はイメージ）。

①氾濫をできるだけ防ぐ

②被害対象を減少させる

③被害軽減・早期復旧復興



●本協議会での主な確認事項

（「流域治水プロジェクト」及び「地域の取組方針」の今後の進め方について）

- ◆水防災意識社会の実現に向け、円滑・迅速な避難や被害軽減の取組等について「地域の取組方針」としてとりまとめ、着実に推進してきたところ。今後は、（危機管理型ハード対策以外の）「地域の取組方針」における取組内容を流域治水プロジェクト「被害の軽減、早期復旧・復興」の対策として位置付け、一体的に進捗を管理する。
- ◆次期の「地域の取組方針（案）」については、台風シーズンを目途に作成し、これによる取組を進めていながら、次回の流域治水協議会において、令和2年度末までに実施してきた「地域の取組方針」の総括・評価を行い、新たな「地域の取組方針」として合意したうえで、これを流域治水プロジェクトに位置付ける。

●流域治水の取組紹介

（徳島市、吉野川市、つるぎ町）

本協議会では、令和3年3月に公表した「吉野川流域治水プロジェクト」に照らし、吉野川流域において先進的に取り組まれている徳島市（都市建設部・北岡部長）、吉野川市（建設部・井上部長）及びつるぎ町（古城副町長）より、それぞれ以下内容の取組紹介をいただきました。

- ◆徳島市：「流域治水検討会議」の設置について
- ◆吉野川市：「農業用ため池による洪水調節対策」について
- ◆つるぎ町：「国土交通省の堤防整備と一体となった土地利用規制の策定」について

徳島市、吉野川市、つるぎ町の取組内容も参考に、その他吉野川流域各市町村それぞれの課題や要望等について把握・共有し、国・県・市町村等が相互にコミュニケーションを行いながら、流域治水対策（ハード、ソフト）の可能性について議論していきたいと思います。

●避難情報の改善

（災害対策基本法の改正）

市町村から発令される避難情報についてこれまで、警戒レベル4では「避難勧告」と「避難指示」がありましたが、この違いが分かりにくいいため、「避難勧告」が廃止され「避難指示」に一本化されました。

これからは、警戒レベル4「避難指示」で危険な場所から全員避難しましょう。

また、警戒レベル5「緊急安全確保」は、すでに安全な避難ができず命が危険な状態ですので、この警戒レベル5「緊急安全確保」の発令を待ってはいけません。

※参考「避難情報に関するガイドライン」
令和3年5月内閣府（防災担当）。

警戒レベル	新たな避難情報等	
5	きんきゅうあんぜんかくほ 緊急安全確保 ※1	
～<警戒レベル4までに必ず避難！>～		
4	ひなんしじ 避難指示 ※2	
3	こうれいしゃとうひなん 高齢者等避難 ※3	
2	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)	
1	早期注意情報 (気象庁)	

加茂第二箇所 堤防延伸中!!

【吉野川貞光出張所】

無堤箇所である加茂第二箇所（東みよし町加茂地先）では、洪水による氾濫被害を防止するため、堤防工事を進めています。全体堤防延長 4,500mのうち、約 1,200mが完成しており、現在下流に向けて約 1,100m、堤防を延伸すべく工事を実施中です。

当現場では、河積確保とコスト縮減の観点から河道掘削を行い、その掘削土と山土の混合土による築堤盛土の施工や、ICT技術を活用した施工を行っています。

本箇所では、平成16年10月の台風23号の洪水により、床上浸水6戸、床下浸水36戸の甚大な被害を受けましたが、堤防が完成すると同規模の洪水が発生した場合でも、浸水被害が発生しないようになります。



工事状況



工事を安全かつ円滑に進めるため工事連絡会を立ち上げ

加茂第二箇所では、現在、堤防工事6件、樋門導水路工事1件の7件の工事が稼働中です。約1,100mの工事区間を7工事が分割して堤防等を施工しています。また、沼田工事箇所の河道掘削土を混合土として使用しており、沼田箇所においても7工事が隣接して河道掘削を行っています。そのため、工事を安全かつ円滑に進めるために吉野川右岸上流（加茂第二箇所）工事連絡会を立ち上げて連絡調整や事故防止に努めています。

吉野川右岸上流（加茂第二箇所）工事連絡会メンバー

- | | | |
|-----------|------------------|---------------|
| ① 令和元-2年度 | 加茂第二堤防護岸外工事 | (株)井上組 ※会長 |
| ② 令和2-3年度 | 加茂第二堤防護岸外工事 | (株)井上組 |
| ③ 令和2-3年度 | 加茂第二堤防護岸（その2）外工事 | (株)井上組 |
| ④ 令和2-3年度 | 加茂第二堤防護岸（その3）外工事 | 佐々木建設(株) |
| ⑤ 令和3年度 | 加茂第二堤防護岸（その1）工事 | (株)井上組 |
| ⑥ 令和3年度 | 加茂第二堤防護岸（その2）外工事 | ISビーズ・高木建設(共) |
| ⑦ 令和3年度 | こまた川樋門導水路外工事 | (株)吉岡組 |
| ⑧ 令和3年度 | 吉野川上流右岸堤防維持工事 | (株)井上組 |
| ⑨ 令和2-3年度 | 沼田上流樋門新設外工事 | (株)井上組 |
| ⑩ 令和2-3年度 | 沼田堤防護岸外工事 | (株)姫野組 |

会長からの一言



連絡会会長
(株)井上組 田岡正人

会長の(株)井上組 田岡です。この連絡会は、業者間の調整をはかり、高品質な目的物と無事故・無災害での完成のために月に1回開催しています。また、開始前には、工事用道路や工事現場周辺の清掃を行ったりして地域とのコミュニケーションも図っており、苦情もなく順調に工事は進んでいます。調整事はいろいろありますが、特に

- 工事用道路が供用のため、特に盛土材の搬入時期が重なる場合には台数制限もあるなかでの細かな業者間の調整
- 工事車両の出入口への交通誘導員の配置では、各工事の工程をみながらの月毎の配置業者の割り振り
- ダンプや重機の通行による防塵対策として、散水作業を各工事の工程をみながらの月毎の作業業者の割り振りの調整には苦労しています。

工事完了まで、事故なく現場がスムーズに進むようがんばります。



連絡会の開催状況



清掃活動状況

重要水防箇所を市町と合同で巡視しました

～出水に備え3市2町の首長と現地確認～

台風や前線等に伴う出水に備え、より一層の水防体制の強化を図るため、吉野川・旧吉野川・今切川（国管理区間）における重要水防箇所の現地状況を確認し、情報を共有することを目的として、今年度より徳島河川国道事務所長と各市町首長による合同巡視を行っています。

令和3年は、徳島市、鳴門市、美馬市、石井町、上板町の首長と現地確認を行いました。



5月27日（木）
徳島市 内藤 佐和子 市長



5月28日（金）
上板町 松田 卓男 町長



5月31日（月）
石井町 小林 智仁 町長



5月31日（月）
鳴門市 泉 理彦 市長



6月2日（水）
美馬市 藤田 元治 市長

巡視を終えた首長からは「堤防の決壊は絶対しないものではない。堤防は完全なものではなく、あくまでも住民が逃げるための時間を稼いでくれるもの。危険が迫った時は逃げていただきたい。そのための情報発信について住民と一緒に考えていきたい」との意見をいただきました。

重要水防箇所とは

重要水防箇所とは、洪水時に堤防が崩れたり、洪水が堤防を越えたりするなどの恐れがあり、重点的な見回りや点検が必要な箇所のことです。点検する堤防の区間が長いため、堤防高さや幅、被災実績などからあらかじめ水防上重要な区間を定めることで効率的な点検ができ、危険な箇所の早期発見を行うことにより、水防団の方々が土のうを積むなどの迅速な水防活動を実施することができます。



▲水防団による水防活動
(月輪工法)

重要水防箇所は、堤防の高さや大きさ、過去の災害の実績などから2段階に分類しています。

【重要度 A】洪水時に被災を受ける可能性がある区間

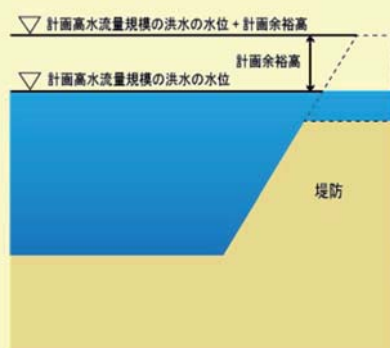
【重要度 B】A ほどではないが、被災を受ける可能性がある区間

また、令和3年度より、新評価基準での指定を実施します。

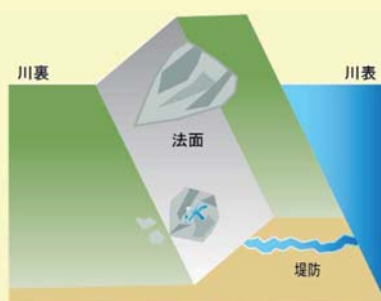
【新評価基準】

水防活動を効率的・効果的に行うため、水防活動の優先度をより明確にできるように水防活動(工法)に直接結びつくものとするとともに、堤防破壊リスクの評価手法に関する新たな知見を活用して見直した基準で、以下の評価基準が改訂されました。

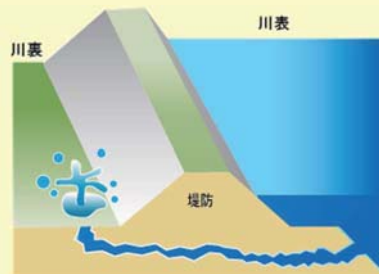
- 「堤防高」→『**越水(溢水)**』
- 「堤防断面」「法崩れ・すべり」「漏水」→『**堤体漏水**』『**基礎地盤漏水**』



越水



堤体漏水



基礎地盤漏水

吉野川流域の堤防は、大正・昭和初期につくられたものが多く、現在まで順次拡幅されてきました。時代により築堤材料や施工方法が異なるため、土質分布や強度が不均一であり、堤体内部の土質構造が複雑であること、また、基礎となる地盤についても、洪水等によって形成された河床材料である箇所が多いことから、堤防内部の「水みち」の形成・拡大が懸念されています。(Our よしのがわ Vol.30) 重要水防箇所の巡視、市町の水防団が実施する堤防の監視などの水防活動は重要な役割を担っています。



令和3年度の重要水防箇所に関する資料は、徳島河川国道事務所のウェブページで公開しています。

<http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/bousai/suiboukasyo/suiboukasyo.html>





「川の時刻表」写真展 ～写真で列車旅の気分を味わいませんか～

列車と吉野川が交わる瞬間をとらえた写真を通じて、吉野川水系の魅力をたくさんの人に知ってもらうために「Our よしのがわ」Vol.41と徳島河川国道事務所のウェブページで『川の時刻表』で紹介しているポイントで撮影した風景写真を募集し、（※募集は終了しました）たくさんの応募をいただきました。ここでは応募いただいた写真の一部を掲載します。

※撮影場所の番号は、『川の時刻表』2021掲載の「交差番号」に対応しています。



タイトル：菜の花とワンマン列車

撮影場所：15 鮎喰川



タイトル：蒼紅永劫（そうくえいごう）

撮影場所：1 吉野川



タイトル：ゴールドラッシュ

撮影場所：7 新町川



タイトル：桜と特急列車
撮影場所：⑮ 鮎喰川



タイトル：トロッコ列車と新緑の吉野川
撮影場所：△A 吉野川



タイトル：「耐えろ！橋脚！」
撮影場所：⑳ 大谷川



タイトル：春の観光列車
撮影場所：㉑ 穴吹川



タイトル：子どもたちの夢を乗せて清流を渡る
撮影場所：㉒ 穴吹川



タイトル：旧吉野川から吉野川へ
撮影場所：⑤ 旧吉野川



タイトル：初夏に向かって
撮影場所：㉓ 大坂谷川

この度、徳島河川国道事務所ウェブページに『川の時刻表』ページがオープンしました。ここでは、ご応募いただいた写真、時刻表のPDFをご覧ください。



徳島河川国道事務所『川の時刻表』ページ
<http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/river/profile/k-j.html>



7/7は
川の日です



国土交通事務次官賞：高延 利行さん
(福山市立伊勢丘小学校)



国土交通大臣賞：湯浅 慶香さん
(徳島市助任小学校)



国土交通事務次官賞：吉田 斐さん
(大田市立仁摩小学校)

せせらぎに ほくも魚も すきとおる

河川愛護月間

7月1日～7月31日



国土交通事務次官賞：米山 瑠乃さん
(名古屋市立春日野小学校)



国土交通事務次官賞：村田 優佳さん
(鹿児島市立吉野中学校)



国土交通事務次官賞：古賀 結花さん
(東京都)



国土交通事務次官賞：小林 星乃陸さん
(米子松蔭高等学校)

"絵手紙"募集中!!

詳しくは

<http://www.mlit.go.jp/river/aigo/index.html>

令和3年10月15日(金)必着



今すぐアクセス

◆標語(平成22年募集)は国土交通大臣賞 松永 卓真さん(熊本県八代市立太田郷小学校)の作品
◆絵手紙(令和2年募集)は国土交通大臣賞他を受賞された方々の作品

- 主催：国土交通省／都道府県／市町村
- 後援：内閣府／NHK／一般社団法人日本新聞協会／一般社団法人日本民放放送連盟
- 協賛：公益社団法人日本河川協会／公益財団法人リバーフロント研究所／公益財団法人河川財団／全国治水期成同盟会連合会／全国水防管理団体連合会／一般社団法人建設広報協会／一般財団法人河川情報センター／一般財団法人渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団／全国建設弘済協議会／一般社団法人全国海岸協会

7月1日～7日は河川水難事故防止週間

〈川の防災情報〉 <http://www.river.go.jp>
〈気象庁天気予報〉「市外局番」+「177」



吉野川を釣る！【番外編】



(愛媛県愛南町由良半島付近)

こんにちは、さすらいの釣り人系河川管理者のNです。趣味のルアーフィッシングを通じて、吉野川流域の素晴らしさを皆様にお伝えできればと思います。

私は、ルアーでいろいろな魚を釣ることを趣味としていて、現在までに300種ほどの魚（淡水・海水・軟体動物含む）を釣っています。

最近かなりマニアックな釣りに終始しておりますので、今回は徳島を離れ、年に1・2回釣りに行っている、愛媛県愛南町由良半島沖のルアーによる船釣りをご紹介しますと思います。

だいたい毎年、ゴールデンウィークと夏に愛媛県愛南町の由良半島沖にレンタルボートで釣りに行っておりまして、今回は夏に釣行したときのことを報告します。



夏休み期間は、台風が発生することは少ないのですが、予定をしていた時期に台風が発生し、九州をかすめるようなコースを取りました。当然、海は大荒れで、本来行きたかった由良半島先端は到底無理で、湾内で小物釣りしかないかなという感じでボートを借り家串港に向いました。（※ボートは、早い段階から予約をしているので少しぐらい荒れているぐらいでは、予約を取り消せません。）

家串港から出港すると湾内の港の少し沖でも波が大きく、湾内を出ることすら無理な状況でした。早々と沖に出ることをあきらめ、湾内でサラシ狙いのヒラスズキ釣りをすることとしました。

上の写真のようなところを11cmのミノーで撃っていきます。すると当たりはあるのですが食いが甘く、なかなかヒットに結び付けられません。

隣で見ていた兄が、「ウネリが強いからヒラスズキが追い切れていないので、止めるくらいのつもりでリトリブすれば?」とアドバイスしてくれます。

アドバイスに従って、ごくゆっくりリトリブしていると小さいながらヒットさせることができました。

操船を交代し、兄も釣ったところでポイント移動し、塩子島に向い、次は鯛狙いで鯛カブラを試してみました。



50cm少し小さいですが、苦勞の末仕留めたヒラスズキ



自己新記録のオオモンハタ

すると、十数投目に根掛りのような大きな当たりで、何か came. 首を振る様子がないので鯛でないのは分かりますが、凄い重さで、よく引きます。深いこともありかなりの時間が掛かって上がって来たのは、この海域では定番の底物「オオモンハタ」でした。

なかなかサイズもよく自己新記録の52.5cmと大満足な結果でした。

午後からは、少し波も落ち着き、南の三ッ畑田島までは何とか行けそうな感じになってきたので、大きく移動し、水深60mくらいにある漁礁を狙います。

GPSで大体の場所まで行き、そこで魚探を掛けポイントを探していきます。すると小魚のいるよさそうなポイントがあったので、船を止め、100gのジグで底を探っていきます。

何度かワンピッチジャークで探していると大きな当たり、これは青物と思い慎重に巻き上げていきます。(※ワンピッチジャーク：ハンドル1回転に1回しゃくる方法。)

しかし、10mぐらいで引きがなくなり、重いだけとなってしまいます。

兄から「もしかしたら、エソかも」といかな予想が！

水面まで来ると「細長い茶色い物体」が見えてきました。

そうです。やはりワニエソでした。それも65.8cmもある巨大なやつです。

まあ、変な魚好きな私としては、ワニエソの記録の大幅更新で、そこそこ嬉しかったです！



こちら自己新記録のワニエソ



サイズの割によく引いたハマチ（ブリの子供）

その後もいろいろとポイントを探り、三ッ畑田島付近の浅いところでは、ナブラも発生し、数匹のハマチもものにすることができました。

ただ、0.8号タックルを使っていため、時間が掛かりあまり数を伸ばすことはできませんでした。

ここのハマチは活性が高く、トップウォーターにも反応し、楽しい釣りを楽しむことが出来ました。

大体満足し、お土産も十分確保出来たので、これからが私たちの本当のお楽しみです。

湾内の港に近い浅いところまで戻り、PE0.5号タックルに持ち替え、珍しい魚釣りに突入です。水深は2m～20mくらいに落ち込むところを狙います。ジグは、本当にがんばるときは5g以下を使いますが今回は、5～10gとウルトラライトジギングといったところでしょうか。

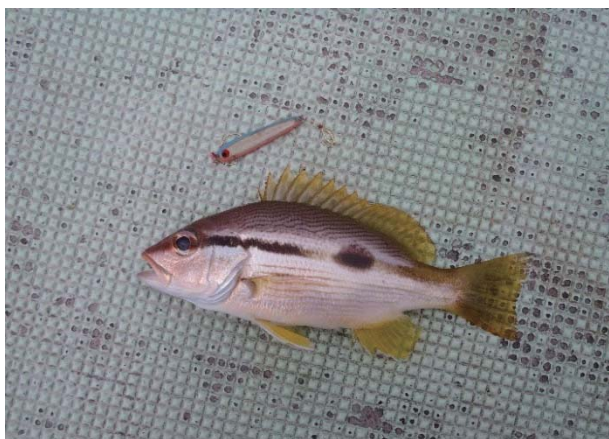
釣り方は、適当に投げて着底後3回くらい連続でしゃくり、また沈めるということを続けるだけです。当たりは、しゃくって沈めるときに来ることが多いので、糸ふけをなくして、当りに集中することが必要です。

狙う場所は、岩がごろごろしているところとか、川が流れ込んでいるところ、いろいろな排水路等の変化のあるところです。

また、季節は夏から秋がいろいろな魚が浅場に上がって来ているので釣れやすいです。

今回も、そんなところを中心に探ってみましたが、一投目から当たりがバンバン出て、1投で1匹釣れることが多かったです。また、ダブルヒットもありました。（※ダブルヒット：前後の針に両方掛け2匹釣れること。）

そうそう、沢山釣るコツは、同じところを狙わないことです。ルアーを投げると周囲5mくらいから魚が、集まっている感じで、少なくとも5m以上はずらさないと当たりは来ません。



まあまあ珍しいヨコスジフエダイ



ルアーでは、なかなか釣れないナガサキスズメダイ



映画「ニモ」で有名なクマノミ



オオモンハタのダブルヒット



南四国では代表的なエサ取りクロホシイシモチ



最近、ハタ類に押され少なくなっているカサゴ



想像ですが、釣られると周囲の魚にはわかるようで周囲に集まっていた魚はよほどのことがない限り、口を使いません。

今回は、オオモンハタとネンブツダイとササノハベラが良く釣れましたが狙いの新魚種は釣れませんでした。やはり場所を大きく変えるか、狙い目（砂地、荒磯）を変える必要性を感じました。



南四国では代表的なエサ取りホシササノハベラ



ルアーではなかなか釣れないハマフエフキ（タマミ）



成長すれば2m弱になるマハタ



成長すれば2m弱になるカンパチ



塩焼きで意外と旨いイトフエフキ



南方系のホシノエソ



<タックルデータ>

ロッド：メバルロッド8.5f（約2.6m）

ショアジギロッド10.6f（約3.2m）

ジギングロッド6.0f（約1.8m）

鯛ラバロッド6.0f（約1.8m）

リール：ダイワ・シマノ2000～5000番

ライン：PE0.3～2号

リーダー：フロロカーボン1～7号

ルアー：メタルジグ5～100g、ミノー、ポッパー、鯛ラバ



今回は、番外編ということで、私がここ10年くらい通っている愛媛県南予の由良半島沖のルアーによる船釣りをご紹介しました。

今回は、荒天のため沖磯には行けませんでした。が、沖に行けば1m以上のカンパチやヒラマサ、ハタ類が狙える楽しい場所です。

また、行くとたびにアカウミガメや、色とりどりの魚が見られ、釣り以外にも楽しみがいっぱいあるところです。

皆さんも見たことのないような魚を目指して釣りに出かけてみて下さい。

今回は吉野川での種数狙いとは関係ありませんが、**15魚種**ゲットできました。次はどこで何を狙おうかな？



今回の獲物。クーラーが小さかった所以他の魚はリリースしました。

徳島河川国道事務所のTwitter投稿記事から、「Our よしのがわ」のイベントだよりなどで掲載しきれなかった記事をご紹介します！



6月25日

吉野川では現在、堤防除草を実施中です。堤防は徐々にきれいになっていますが刈草が大量に発生しています。その刈草を持ち帰って頂ける方を募集中です。配布場所の詳細は徳島河川国道事務所HPをご覧ください。



6月7日

霧の多い日は吉野川がすっかり隠れて、こんな風に橋が見える瞬間もあります！
幻想的で素敵ですね
でも視界の悪さにはご注意ください！



徳島河川国道事務所の Twitter では、所管する「国道11号、28号、32号、55号、55号バイパス、55号日和佐道路、192号、192号バイパス道路」や「吉野川・旧吉野川・今切川」に係る情報等を発信しています。



https://twitter.com/mlit_tokushima

とくしまちなか花ロード project
「花植え会」

5月15日（土）、とくしまちなか花ロード project 第21回「花植え会」が実施され、たくさんのボランティアの方々が花植えを行いました。

例年より21日早い梅雨入り初日となった曇り空のもと、鮮やかな赤・紫・白色のペチュニアを植えました。

花植えの後にいただいたうどんも安定の美味しさでした！



「第二室戸台風」講演会

5月29日（土）、「第二室戸台風」講演会（主催：徳島県 とくしま地震防災県民会議）がオンラインで開催されました。

第二室戸台風は、60年前の昭和36年に発生し、徳島県や関西地方に高潮や豪雨による甚大な被害をもたらしました。

基調講演は、徳島大学特命教授 中野晋^{すすむ}氏が、第二室戸台風の被害を振り返りながら高潮災害の恐ろしさ、高潮被害に備えるために何をすべきか等について、続いて、特別講演として気象予報士の片平敦^{あつし}氏が、情報を有効活用して災害から命を守る事の重要性について、お話されました。



吉野川防災パネル展

このパネル展は『水防月間』（5月1日～5月31日）および『土砂災害防止月間』（6月1日～6月30日）における防災活動の一環として、徳島県内の国土交通省の事務所（四国山地砂防事務所・吉野川ダム統合管理事務所）や徳島県の協力を得て開催しているものです。

今回は、吉野川流域の4施設で展示を行いました。



▲徳島県立防災センター
5/11（火）～5/30（日）



▲貞光ゆうゆう館
5/17（月）～5/31（月）





▲鴨島公民館
6/7（月）～6/14（月）



▶フジグラン石井
6/21（月）～6/28（月）

展示内容は、吉野川や県内河川における台風の豪雨による被害状況や、治水対策の取組などでした。今後も地域住民の防災活動に役立つ情報を発信、共有できればと思います。



イベント名	開催日	開催場所	内 容	Web ページ等
交流体験 in よしのがわ	7月25日 (日)	上流編 池田湖水際公園	「交流体験 in よしのがわ」は、吉野川交流推進会議主催で小学生とその保護者の方を対象にして、毎年夏に開催しているイベントです。 徳島河川国道事務所は、この中で水難事故防止講習を実施しています。	
	7月22日 (木・祝)	中流編 美馬市 青石橋付近		
	8月1日 (日)			
	8月6日 (金)	下流編 鮎喰川 梁瀬橋付近		
水辺で乾杯 in新町川	7月7日 (水)	新町川・阿波製紙水際公園ボートハウス前	7月7日午後7時7分のタナバタイムに自分たちが選んだ「水辺」に行って全国一斉に「乾杯」し、水辺を楽しむ取り組みです。	

注：上記日程は6月30日時点のものです。新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、イベントの中止や延期が多くなっています。参加にあたっては、開催状況等に十分ご注意ください。

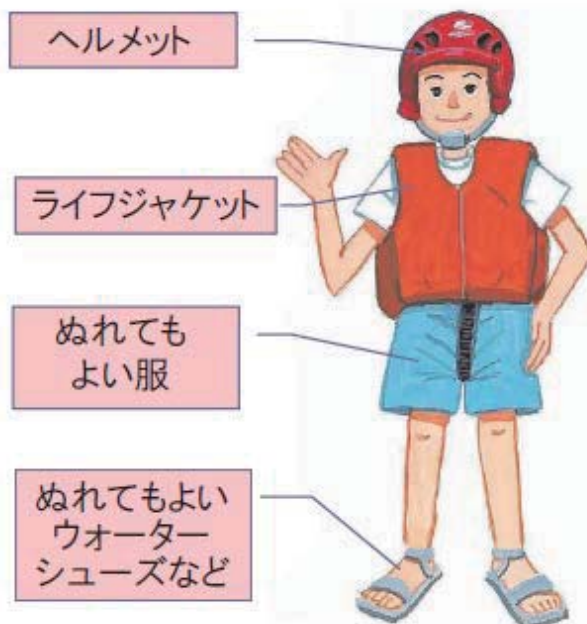
●川で遊ぶときは正しい服装で！

楽しく遊ぶために
守ってね！

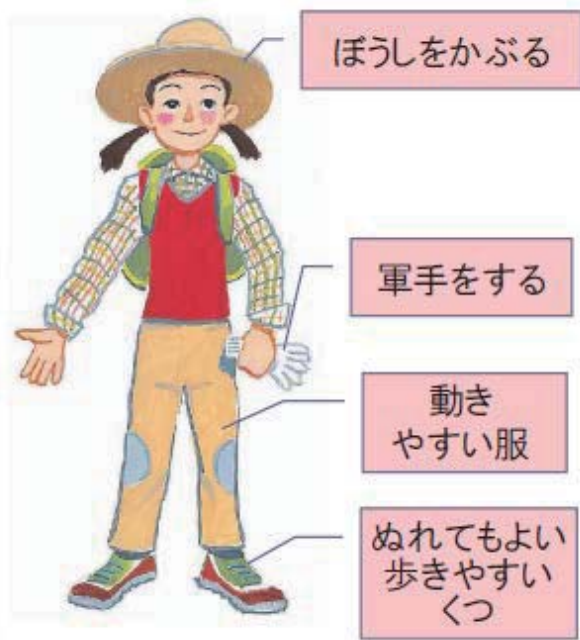


川へ遊びに行く時は、事故を未然に防ぐために正しい服装をする事が大切です。
お子様はもちろん、大人も正しい服装で安全に川遊びを楽しみましょう。

●水に入るとき



●かわらや水辺で遊ぶとき



(出典：水辺の安全ハンドブック／財団法人河川環境管理財団)

吉野川 Diary

盛夏号いかがでしたか。

このコーナーでは誌面に掲載しきれなかった話題をお届けします。

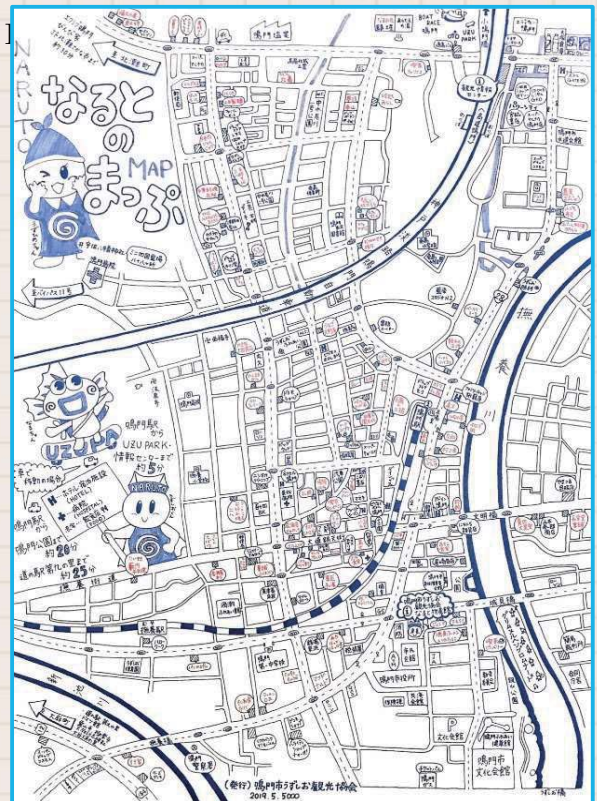
一般社団法人鳴門市うずしお観光協会 手書き地図が好評です。

鳴門の観光情報の発信やイベントの開催、物品の販売など、鳴門市観光の情報発信基地とも言える鳴門市うずしお観光協会。ここにある観光情報マップが利用者に好評を博しています。

可愛いイラスト付きの『なるとのまっぷ』は、事務局スタッフの方がすべて手書きしたものです。旅行先での悩みといえば食事。そんな悩みを解消するように、飲食店はすべて赤い文字で店名が書かれています。表面は市街地中心に、裏面は鳴門公園やウチノ海と分かれて描かれているため、手書きの優しい文字と相まって、大変分かりやすくなっています。

県外の方だけでなく、県内在住の私たちも改めて鳴門を再発見するきっかけになる地図です。鳴門市うずしお観光協会で自転車を借りて、この地図とともに小旅行してはどうでしょう。

鳴門市うずしお観光協会 TEL:088-684-1731



制作したスタッフの方は、通常の業務の合間に下見に出かけ、何ヶ月もかかってこの地図を仕上げました。難しかったのは、川の流れや道のカーブで、手書きすると実際とはズレが出てしまい、調整に時間がかかったそうです。

「Our よしのがわ」編集後記

この夏も家で過ごす時間が多くなりそうですが、この機会に過去の「Our よしのがわ」を読み返してみませんか？徳島河川国道事務所のウェブページではこれまでのバックナンバーをすべて公開しています。また、冊子の送付※は下記の電話番号で受け付けています。（宮）（※冊子送付の際の送料はご負担願います）



〔発行〕；国土交通省四国地方整備局 徳島河川国道事務所

〔編集〕；Our よしのがわ編集委員会

〒770-8554 徳島県徳島市上吉野町3-35

TEL (088) 654-9175 (直通)

FAX (088) 654-9177

E-mail: skr-tokusa63@mlit.go.jp

ウェブページアドレス <http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/>

（注記）QR コードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



【Our よしのがわ編集委員会】

- | | |
|--------|--------|
| ・黒田 稔生 | ・大江 茂徳 |
| ・中塚 光 | ・松本 幸一 |
| ・林 昌宏 | ・宮地 正彦 |
| ・佐藤 英人 | ・牛野 憲治 |
| ・川人 義功 | ・安永 一夫 |